

第 33 回関東甲信越地区学会期間中に頂きました質問

【 質 問 】

手術室認定看護師の役割や認定看護師になるための過程、活動内容について学ぶことが出来ました。

自施設には認定看護師がいないため、どのような活動を行っているのか不明だったのですが、二次的合併症を予防するための安全管理や、最新の知見を現場に提供し EBN を推進すること、領域や部門を超えた横断的な関わりを持つように活動することが必要であると学ぶことが出来ました。

質問なのですが、私も手術室認定看護師の資格を取得したく学校に入学したいと考えているのですが、入学するためにどのような勉強が必要なのか、過去問はあるのか、どのような勉強方法を行って学校に入学できたのかについて知りたいです。



【 回 答 】

手術看護認定看護師教育課程へ進学するにあたり、必要となる事前準備についてお答え致します。

(私が取得してから随分経過していることと、東京女子医科大学一択だったのが、兵庫医科大学と昭和大学の 2 施設に替わっていることもふまえ、直近の情報を含めてお答え致します)



先ず受験する為には、自身の中で明確な動機と資格取得後のビジョンが必要です。というのも、認定看護師教育課程は、限られた時間で多くの知識と技術を詰め込むように学び、他施設での実習も行います。

日々多くの記録やレポート・試験に追われ、特に実習中は体力的にも精神的にも疲労がピークに達すると予想されます。そんな中でも挫けずに自身や患者と向き合い、常に前向きに取り組んでいくためには「自分がなぜ認定看護師を目指しているのか、認定看護師の資格を取得して何をしたいのか」明確になっていることが必要です。

また入試の面接においても、志望動機や資格取得後の活動について、質問がくると予想されます。

その時、自身の考えを明確に伝える事ができれば、面接官に学ぶ意欲をアピールすることができ、好印象につながると思います。

無事入学できたとして、教育課程を受講する中、教員や同じ志を持つ他施設の仲間たちの考えや意見に触れ、自身の目標や志が変化することもあります。教育課程の期間中、できるだけ多くの仲間とコミュニケーションを図っていくことをお勧めします。



受験についてですが、過去問の公開はどの施設も行っていないのが一般的です。手術看護分野(昭和大)についても確認しましたが、公開はしていないようです。試験については、周術期に関する内容が主体となります。

以下、参考書を活用いただければよいかと思います。

- ① ナーシング・プロフェッション・シリーズ 手術看護 第2版 術前術後をつなげる術中看護 単行本(ソフトカバー) – 2019/1/31
- ② 周術期管理チームテキスト第4版 新書 – 2021/3/1



① は手術看護認定看護師が共同して執筆した書籍です。昭和大学認定看護師教育センターの主任教員である山口紀子先生が編集者としてまとめており、手術看護の基本から看護計画に至るまで書かれています。
ここに書かれている内容は、看護実践に直結するものばかりなので、認定看護師教育過程を目指す上で事前に学んでおきたい内容と言えます。

② はご存知かと思いますが、日本麻酔科学会「周術期管理チーム看護師」の認定を受ける方のバイブルとして発刊されている書籍です。看護のみならず麻酔を含め、周術期のあらゆる知識が網羅されています。最新のガイドラインに沿っており、辞書的な使用もできる書籍と言えます。

上記①・②以外に過去の看護師国家試験の内容（周術期に関連する部分）も復習しておくといはいいです。

創傷・病気の治癒過程など、看護師を目指す学生が最低限学んでおかなければならない内容が、国家試験では出題されています。

そのため、認定看護師教育課程の入試問題としても、取り上げやすい内容であると考えられます。

以上が近年の傾向もふまえた事前準備のポイントです。

認定看護師教育課程では、知識の修得は勿論のこと、自分自身を見つめ直す貴重な機会となります。何よりも目的意識と前向きな取り組みが重要です！

私たち手術看護認定看護師の仲間になっていただけることをお待ちしております！

